公益財団法人　埼玉県剣道連盟『広報誌』

剣風

事務局　〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
http://www.saitama-kendo.or.jp
（編集責任者　奥田昌利）

第11号　平成28(2016)年11月30日発行　　（題字　前会長　野澤 治雄）

巻頭言

「剣道」の更なる発展を願って

埼玉県県民生活部　スポーツ局長　久保　正美

「黙想！」「止め！」「礼！」30年程前、私が高校の保健体育の教師をしていた頃の剣道の授業開始の挨拶です。私自身は水泳が専門競技ですので、剣道専門の先生に指導法や剣道精神などを指南していただき、着慣れない剣道着と袴を身に纏って授業に臨みました。授業では基本動作や対人的技能などの実技指導だけでなく精神面の指導にも力を入れました。生徒は試合の前の高ぶる気持ちを抑えたり、試合中の激しい攻防で一本を取られ敗れた後でも、その興奮を抑えて、正しい形で丁寧な「礼」を行わなくてはいけません。見事に一本を取ってもガッツポーズをしたことで、見苦しい引き上げとして取り消したり、「気剣体一致」の重要性も指導しました。「礼」を重んじ、その形式に従うことは、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を形に表すことであり、生徒の人間形成にとって大変重要で、他の領域（学習指導要領では、扱う競技・スポーツを領域と言う）にはない教育的な意義があると思います。

平成20年に改訂された中学校学習指導要領では、武道の必修化により、体育の授業で剣道を含む武道を男女問わず全員が学ぶことになりました。我が国の伝統的な運動文化である武道を重視することは、これからの国際社会において、世界に生きる日本人を育てるという意味からも大変有意義なことです。生徒が「礼に始まり礼に終わる」剣道をしっかり学び、その精神を身に付け、様々な場面において自信をもって世界に紹介できるようになってほしいものです。

一方、私は剣道をもっと身近でできる環境があってほしいと感じています。最近は、ジョギングなどの手軽に始められるスポーツが人気で、来年２月に開催される東京マラソンには、一般枠26370人に対して32万人以上の申し込みがあり、抽選倍率は12.2倍となっています。東京マラソンが始まった2007年以来、女性も含めすっかりマラソンブームが定着した感があります。剣道は、普段の生活の中では防具や竹刀などを用意することが難しく、もっと身近で気軽に取り組める工夫ができないかと感じます。例えば、基本姿勢や動作、剣さばきを一人で練習できる「形」を考案し普及させたり、小さい子供も安全に取り組める「ワンパク剣道」なるものを考案したり、新しい取組にチャレンジすることで、剣道の更なる発展に繋がると良いと思います。

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、スポーツは世界共通の人類の文化です。剣道も我が国が誇る運動文化であり、その伝統と高い精神性は今後も大切にしてほしいと思います。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツへの関心が高まるとともに海外からも多くの選手や役員、観戦客が訪れます。この機会に日本剣道界を挙げて「剣道」を世界に紹介・発信してほしいと思います。

終わりに、公益財団法人埼玉県剣道連盟の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

「大会記録この１年」（2016年後期）全国大会（上位）入賞結果・県予選会結果（報告）

順不同

◆国体県予選（５月29日）
男子先鋒の部　①楠松慎治（県警）②水森（東松山）③阿部（県警）③長峰（北本）▽**同次鋒の部**　①嶋田貴文（県警）②篠田（県警）③西田（川越）③足立（県警）▽**同中堅の部**　①橋本桂一（東松山）②米屋（県警）③東永（県警）③斉藤（高校）▽**副将の部**　①井口清（県警）②菊地（県警）③中谷（川越）③徳村（県警）▽**大将の部**　①上野（川口）②大澤（県警）③原（高校）
女子先方の部　①山村貴恵（春日部）②内野（所沢）③小林（久喜）③萩原（越谷）▽**中堅の部**　①本郷利枝（高校）②川崎（越谷）③二瓶（越谷）③山下（本庄）▽**大将の部**　①村山千夏（県警）②市村（朝霞）

◆県学校総体高校の部（５月30日、６月18、19日）
男子団体　①埼玉栄 ②立教新座 ③本庄第一 ③春日部
女子団体　①埼玉栄 ②本庄第一 ③淑徳与野 ③ふじみ野
男子個人　①曽田峻平（本庄第一）②中嶋（立教新座）③端（埼玉栄）
女子個人　①嶋田莉子（本庄第一）②江藤（埼玉栄）③安井（淑徳与野）

◆全日本高齢者武道大会（６月６日）
男子団体の部　第３位　埼玉県（弘中、伊藤、渡辺、福田、山下）
65歳～69歳の部　第３位　大都堅
55歳～64歳の部　第３位　小野原完治

◆第５回埼玉県杖道大会（６月12日）
個人戦
基本の部　①金　旻燦（埼大杖道部）②小本喬
初段の部　①加子晏楓（大宮武林会）②神﨑士龍（埼大杖道部）
二段の部　①青木四郎（久喜杖道会）②後藤かおり（埼大杖道部）
三段の部　①畑山良一（大宮杖道会）②石原仁道（浦和杖道会）
四段の部　①杉﨑利春（久喜杖道会）②江口佳寿美（久喜杖道会）
五段の部　①永井順子（埼玉杖神会）②並本大介（所沢杖友会）
第３位　小野島優（大宮杖道会）　加子明子
団体戦　①久喜杖道会（中島・杉﨑・江口）②東入間支部（勝呂・駒井・小林）

◆第28回東京都杖道大会（７月９日）
四段の部　①杉﨑利春・杉﨑かずみ
五段の部　①朝比奈辰樹
七段の部　①瀧澤利行（最優秀選手賞）
奨励賞　加子晏楓・加子瑛絵

◆県学校総体中学の部（７月25、26日）
男子団体　①越谷栄進（飯塚、上木、井上、豊田亮、豊田虎）②川口芝 ③桶川東 ③北本
女子団体　①吉川南（石田、加藤、釜下、菅野、佐々木）②久喜菖蒲 ③春日部大沼 ③春日部
男子個人　①清水翔太（川口芝）②細渕（所沢向陽）③秋山（川口芝）③井上（越谷栄進）
女子個人　①小川真英（春日部大沼）②鎌田（戸田笹目）③佐々木（吉川南）③臼倉（川口芝）

◆全日本選手権県予選兼県選手権（８月28日）
①足立柳次（県警）②東永幸浩（県警）
③嶋田貴文（県警）

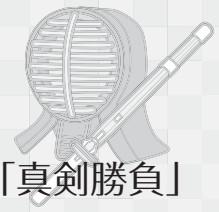
◆全日本杖道大会（10月16日）
７段の部　③瀧澤利行・平野弘美

◆中学新人大会（11月８、９日）
▽**男子団体**　①春日部大沼（高橋、鈴木、浅田、浅崎、北野）②川口芝 ③加須大利根 ③城北埼玉
▽**女子団体**　①春日部大沼（竜崎、平吹、小川亜、坪井、小川真）②久喜菖蒲 ③吉川南 ③春日部
▽**男子個人**　①北野真生（春日部大沼）②森山（久喜菖蒲）③山口（川口芝）③前泊（城北埼玉）
▽**女子個人**　①大泉波音（北本）②小川真（春日部大沼）③小川亜（春日部大沼）③池田（越谷栄進）

◆県高校新人大会（11月18、19日）
男子団体　①本庄第一（豊島、畑中、泉、新井、井田）②春日部 ③埼玉栄 ③立教新座
女子団体　①本庄第一（土田、木全、佐藤光、佐藤未、板倉）②埼玉栄 ③伊奈学園 ③淑徳与野

◆埼玉県剣道大会（一般の部）（11月27日）
五段以上の部　①橋本桂一（東松山）②田島純一（警察）③平野紳一郎（警察）③篠田康平（警察）
四段以下の部　①口田超貴（警察）②佐々木優人（朝霞）③西田翔太（川越）③近藤大貴（川越）
女子の部　①萩原愛子（越谷）②宮沢彩香（所沢）③田澤裕佳（所沢）③関寺紘美（所沢）
夫婦の部　①中谷有伸・ゆみ（川越）②大園勝洋（杉戸）③末武秀尉（川越）③韮塚雅司（本庄）

幼少年剣道指導者講習会



剣道界のすそ野拡大へ／県下から指導者70人が参加／最新の幼少年指導法を伝承、継承へ／講師、受講者が終日「真剣勝負」

剣道界の次代を担う幼少年に、伝統文化剣道の良さ楽しさを伝承、継承するために、創意工夫による新たな指導法を探り広めようと９月４日、さいたま市大宮武道館で埼玉県剣道連盟初の幼少年剣道指導者講習会が開催されました。

県内37支部から幼少年の指導に携わっている指導者約70人が参加しました。戸賀崎正道氏（県剣道連盟業務執行理事・惠文館館長）、佐藤義則氏（県剣道連盟専務理事、全日本学校剣道連盟常任理事）、佐藤安治氏（県剣道連盟審議員、川口市剣道連盟会長）、塩野潔氏（県体育協会スポーツ科学委員会スポーツドクター、塩野胃腸科病院長）の４人の講師から、長年の指導による創意工夫から編み出した独自の稽古法などを実技を交えて伝授していただきました。

受講者は、ビデオや写真、メモを取りながら食い入るように講義に集中。教える方も、教わる方も文字通り真剣勝負で、剣道に対する情熱がひしひしと伝わってきました。

会場には、県剣道連盟の豊嶋正夫会長、栗原憲一副会長、奥田昌利副会長、関口善行副会長らも顔を揃え、豊嶋会長から「初心者にいかにして剣道の楽しさ良さを伝えるかが大切。そのための工夫を学んで、それぞれの地域で広め、剣道界を下から押し上げる大きな力にしていって欲しい」と参加者を激励しました。

講習内容は、受講者が各支部に講習内容を持ち帰って、支部単位で指導法を伝承、継承していきます。

①戸賀崎正道先生講義「初心者指導全般について」

個々に合った指導／飽きさせない指導の工夫を伝授

幼少年指導歴50年という豊富な経験をもとに指導要領と指導実践例の大きく２つに分けての講義でした。特に強調されていたのは、個々の能力をしっかり把握し、個々に合った指導が重要性であることと、構え。「剣道は構えに始まり構えに戻る。打つ動作はその間の動作である」

【初心者指導要領】

▽指導上の留意点　①心身の発達に応じた指導（剣道を習いたいと思った動機と理由を知る／個々の体力・運動能力・適正能力を把握する）②飽きさせない指導（幼少年と同じ目線に立つ／手刀、模擬刀、チャンバラ棒などを活用したボール打ちなど）

▽絶対に妥協してはならない重要項目　①姿勢 ②構え方 ③足運び ④素振り ⑤着装

▽その他　①身長、体重、体力に逢った竹刀を選ぶ ②安全指導（竹刀の点検、手入れ）

【初心者指導実践例】

①準備運動（ストレッチと体力増強）②素振り ③運足・足さばき（すり足を徹底して意識させる＝小手→面、面→面などの連続打ち込みでは保護者が短い竹刀を持って協力。我が子の打突力で成長過程を実感してもらう）

【分かりやすく教える例】

▽構えについて　剣道は構えから始まって構えに戻る。打つ動作は構えと構えの間のこと。駆けっこに例えれば、構えはスタートとゴール。打つ動作は走っていること。

▽刀筋について　日本刀で空を斬ってみせる。耳で「ピュッ」と音を聞かせ、興味と関心を持たせて集中力を高め、刀筋正しく振る大切さを教える。

▽稽古は不可能を可能にする　練習はうそをつかない。練習でできないことは試合でやろうとしてもできない。百錬自得を教える。　▽指導の要点を常に意識させる　指導要点を書いた紙をラミネート加工（パウチ）して渡す。繰り返し読ませる。

※戸賀崎正道氏略歴　埼玉県剣道連盟業務執行理事、久喜剣道連盟名誉会長、久喜「惠文館」館長、神道無念流宗家

②佐藤義則氏講義内容「創意工夫による初心者指導」

まず剣道の楽しさを伝える／動機付けの重要性強調

初心者を惹きつける剣道指導法など講話の後、剣道遊びの体験やリズム剣道など実技を行いました。子どもたちが初めて剣道と出合った時の、楽しいという動機付けの重要を強調。「知らない人にとっては興味深いと同時に不安でもある。発育、発達、実態を考慮した創意工夫が大切」と、実技では子どもたちに、まず剣道の楽しさを知ってもらうことに主眼を置いた指導となりました。

【初心者ひきつける指導法】

▽相手を知る　保護者や子どもたち、入門者は何を求めて入門し、道場で何を学ぼうとしているか的確に把握する

▽体験教室　①剣道の技を知る（打ち込み稽古を見せる）②剣道遊びから体験（新聞紙球を打つ、新聞紙を斬る、剣道具を打つなど）③礼法を知る④足さばき

▽指導計画を作る　短期、中期、長期、指導の流れ、個に応じた指導（一方通行指導にはならない）

▽稽古の流れの工夫　①導入（礼法、道具・着装、準備運動、目的）②展開（基本動作、基本稽古）③まとめ（評価、次回予告）

▽つつしまなればならない指導　①厳しさを求める過ぎる②剣道用語の多発③一斉指導④長時間指導④素振り空間打突

【実技指導】

▽剣道遊びの体験　①シャボン玉、風船打ち（宙に浮かんだシャボン玉、トスアップした風船をペットボトルなどで打つ）②多目的ボール打ち（トスアップしたボールを竹刀で相手に打ち返す。ドリブルも）＝手の内、物打ち、踏み込み足、発声への導入

▽音楽を活用したリズム剣道　①音楽に合わせて竹刀を上下に振ってみる（振り上げたら頭や腰の高さまで振り下ろす。その場の運動の後、足を送る）＝音楽の選定にも工夫

※佐藤義則氏略歴　埼玉県剣道連盟専務理事、全日本学校剣道連盟常任理事、元全日本剣道連盟常任理事

③佐藤安治氏講義内容「初心者指導の実践事例」

創意工夫を取り入れた練習内容／子どもたち参加して実技指導を披露

川口芝スポーツセンター少年少女剣道クラブでの少年指導の様子を、講話とビデオで紹介後、実技指導を実演していただきました。同センターの石井宏幸氏と小山正美氏が、剣道歴５カ月の山上春風さん、青空さん姉妹（小１）と剣道歴３年の福島天さん（小４）を相手に、両手素振り、ボール打ち、芝 SC 方式基本判定試合などを披露しました。ビデオでは道場訓（五戒）を大切にしてる様子が印象的でした。また、石井氏には受講者を代表して指導体験発表もしていただきました。

【講話】

▽芝 SCクラブの紹介　昭和54年に誕生。当初から少年少女教室、親子教室、婦人教室、一般剣道クラブでスタート。多数の OB を輩出。現在は OB指導者として活躍している。

▽一日の稽古内容　①準備運動（ランニング、足さばき、手刀素振り、木刀素振り、基礎体力作り）②礼式（道場訓唱和）③稽古（防具組と未着に分かれての別メニューの内容紹介）

【初心者実技指導】

▽両手（手刀）素振り　両手を合わせ親指交差による素振り（構えの姿勢から振りかぶり最高点で両肘を曲げず送り足面。場所を選ばずいつでもどこでも練習できる）

▽ボール打ち　２～３㍍先からトスされたボール（空気圧の低いバレーボール等）を竹刀で打って相手に返す（楽しみながら軟らかい手の内の感覚を身につける）

【段階的指導＝協議性への移行】

▽基本打判定試合（芝 SC 方式）　試合者２名が基本打ち（素振り、前後面、踏込面等）を同時に行い３名の審判で旗判定（敗者への配慮＝長所の指摘を忘れない）

▽基本打ちこみ練習（防具組への移行段階）　面、小手、小手→面までの打ち込み反復練習（気合とともに１拍子での打ち込み）

※佐藤安治氏略歴　埼玉県剣道連盟審議員、警視庁剣道師範、川口剣道連盟副会長、芝スポーツセンター少年指導

④塩野潔氏講義内容「幼少期のスポーツ障害」

AED の重要性を指摘／剣道特有の障害予防も

スポーツ中の事故、熱中症、心停止の対処方法などを実例を示しながら講義していただいた。また、剣道特有のスポーツ障害に関する留意点も指摘していただいた。

▽除細動器（AED）の有効性　スポーツ中の心停止は AED があれば多くの命が助かる。AED の設置場所の把握と使用方法を知っておく（電源を入れ、後は AED の指示に従う）

▽熱中症の応急処置　①ただちに運動を停止する（防具をすべて外す）②迷うことなく救急車を呼ぶ③体温を下げる（水を掛ける。手持ちが少ない時は口での霧吹きが有効、水を飲ませる）④手足のマッサージ

▽熱中症の予防　①暑さを我慢しない。冷房を使う②事前飲水、ウォーターブレイクの励行（面着用時はストロー）③限界を超させない（しごき、いじめの分かれ目）

▽剣道における障害の注意　①腰痛（体当たりに起因）②アキレス腱断裂（吹き込み足）③腓腹筋肉離れ（同）③眼外相（竹刀の破片）④足裏損傷（同）

▽障害の予防　①スポーツ前後のストレッチの励行②安全確認（竹刀、防具、道場床の点検）③限界を超えない練習

※塩野潔氏略歴　埼玉県体育協会スポーツ科学委員会スポーツドクター、塩野胃腸科病院長、日体協公認スポーツドクター１期生、元浦和レッズチームドクター

「少年剣道育成強化…実践事例シリーズ③」

解脱錬心館

道場は大家族「解脱錬心館」

館長　田中　宏明

本館は、昭和48年８月に北本市に本山を置く宗教法人解脱会が、当時の北本市議会議長であった吉田慎一郎氏（後に初代後援会会長を務める）より「国の次代を担う若者に剣道を」との要請を受けて、社会貢献の一助となればとの願いを込めて会の一部施設を道場に改修して創館され、本年創立45周年を迎えました。当初、わずか５名の入門生で発足致しましたが、北本市市制施行による人口の増加と少年剣道ブームの影響で入門生は日毎月毎に増加の一途をたどり、700名を超える大所帯の道場となりました。そして、埼玉県剣道連盟二代会長であった佐藤顕先生を初代名誉館長として迎えたことにより全日本剣道連盟、埼玉県剣道連盟とのご縁を頂き、毎年２月には全国の第一人者による剣道研究会、又、昭和51年から現在に至る外国人剣道導者講習会の受け入れを始め、埼玉県剣道連盟の諸行事も受け入れさせて頂くこととなり、微力ではありますが剣道の充実、発展はもとより国際普及に寄与して参りました。更に、楢崎正彦先生、大久保和政先生と埼剣連歴代の会長を名誉館長・最高師範としてお迎えし、剣道界最高峰の先生方の高きご指導によって剣道を正しく真剣に学び、その中から剣の徳目を養い、解脱会の願いでもある、地域青少年が社会に有意な人材として育ってくれることを期待しつつ、主役である子供達と指導者並びに保護者が三位一体となって「朝鍛夕錬」日々努力を重ねて今日に至っております。

平成13年、創立30周年を機に改めて日本一と言われるような道場を目指そうと大きな目標をたてました。今なお、夢に向かって現在進行形ではありますが、その間の15年の歩みについてお話しすることが、今回の原稿依頼に繋がるものと思いますので当時を振り返りつつ綴っていきたいと思います。日本一の道場と

言われるには、やはり試合に勝つということも重要な要素の一つです。試合に勝つには当然、稽古の質量を増やさなければなりません。又、練習試合も数多くこなし県内外への遠征も計画、実行しました。その中でこれだけは大切にして守ってきたということを参考までに列記したいと思います。①練習試合や遠征を増やしても、通常の稽古はこれまで以上に基本稽古を中心にしっかりと実施した。②試合に出ない（出られない）子供達への指導、配慮は特に意識して選手以上に誠心誠意指導にあたった。③指導者も子供達以上に稽古を積んで、先生達は自分達よりも頑張っていると子供達が感じてくれるように日々努力した。④選手には特別な事をしているような気持にさせず、勉強は勿論のこと学校や家庭生活においても気を抜かず一生懸命に努力するよう指導した。⑤特に挨拶や返事、言葉使い等についても厳しく指導した。⑥保護者に対しても、指導者と親の役目立場が違うこと。その中で、子供が勝っても負けても口出しはせず、日々の努力を温かく見守ってほしいと事ある毎に伝えた。⑦日本一を理由にして指導者の言動や考え方が一般常識からみて偏っていないかを常に自問自答した。以上、一つ一つ挙げるときりがありませんが、このような点に留意しながら日本一を目指しました。

お陰様で平成15年には中学生が地元北本中学校として、初めて埼玉県を代表して全国中学校剣道大会に個人団体両部門で出場を果たし、関東大会では、小林が個人優勝に輝き次年度も宮原が個人で連続優勝を果たしました。（その後も、全中予選では本年まで15回の内、決勝戦に９度勝ち上がり６回優勝して全国関東大会出場を果たしている)。蛇足になりますが、その当時の小林、同じく道場連盟の女子個人で優勝した加藤が現在錬心館の職員となり子供達の指導にあたっています。この頃から次第に結果を残し始め、埼玉県道場連盟主催の県下大会では各部門で毎年優勝入賞を果たし、平成17年には全日本武道錬成大会で優秀賞、第40回全日本少年剣道錬成大会で中学生ベスト８、小学生第３位、19年には、第48回全国選抜少年剣道大会で準優勝と輝かしい成果を収めました。その影響か、当時県内外から錬心館に入門したいと各地域や道場で活躍している優秀な選手から度々連絡がありました。しかし、それに対しては特別な理由がない限り先生の許可をもらって稽古に参加しても良いが道場を替わって入門してくることも錬心館から選手として出場することも許可しませんでした。そのお陰で現在はそういう連絡は無くなりましたが、心の奥では、この子が入れば優勝間違いないと思ったことも何度となくありました。しかし、子供達に礼節を教えていながら大人が勝つ為には教えていることと反対のことをしていいのか。そこまでして勝つ必要はないという考えで今日に至っています。少ない紙面の中で今回は少年剣道の一端を綴りましたが、一般部やＯＢの活動も稽古のみならず大変活発です。そして、いつも支援、協力して頂く後援会保護者の力は、何よりも有難い存在です。

道場は大きな家族だと思っています。家族の数だけ物語があります。小さな子供達からお祖父ちゃんお祖母ちゃん剣士まで、道場に来ればそれぞれの居場所があって互いに学び合い、支え合い、励まし合って個々の人格を高めていく。そして「正しくして勝つ」。解脱錬心館は、そんな道場を目指し、今後も更に努力していきたいと願っています。

「我が師を語る」―志藤義孝先生　剣道即人生の実践者―

埼玉大学剣道部鳳翔会顧問　教士七段　町田　純

志藤義孝先生

私は今70歳、埼玉大学で剣道を始めてから52年になり、剣道の虜になっている。大学１年の時、一般体育の講義で、志藤先生が剣道に触れ「我々は高等師範で朝から晩まで剣道づけなのに、膝の悪いステッキ歩行の70歳の高野佐三郎先生に誰も勝てなかった。」と話された。私は高校時代ラグビー部員で、スポーツの世界ではパワーが第一と思っていたので、その話にショックを受けた。当時日本一の八幡製鉄のM選手が30歳で引退していた。先生の話で剣道に興味を持ち質問してみた。「剣道の時、メガネはどうしてますか？」「外しているので、相手はボーッとみえる」の答えだった。ど近眼の私でもできると思い、剣道部に入部した。先生は当時、新設の教養部体育研究室主任教授、学園紛争時の学生部委員としてご多忙だったので、実際に先生に稽古をお願いできたのは２年後だった。出ても引いてもすべて打たれ、名人だと思った。即体育研究室に行って、「誰にも打たれないで勝てる方法を教えてください」「そんなのがあったら俺が知りたいよ、とにかく稽古してみよう」となった。学園紛争で授業が無くなると、先生と二人稽古が始まった。私は「一本打てたら卒業しよう」と思った。それが大きな間違いだった。一生打てなかったからだ。８年間学生してしまった。大学が北浦和から現在の下大久保に統合移転後まもなく、先生の家の居候となった。奥様が入院されたからだ。二人で蕨の先生宅から大学にバスで往復した。奥様退院後もしばしば泊まらせてもらい、外からも内からも丸ごと志藤ファンになってしまった。

先生は大正２年生まれ、前橋中学で同校教諭の父君から剣道の手ほどきを受けた。昭和５年東京高等師範学校体育科（剣道）に入学し、高野佐三郎、菅原融先生等に師事、剣道専門家の道を歩んだ。昭和９年同校卒業。山形県立山形中学、埼玉師範学校、埼玉大学、埼玉工業大学に勤務された。埼玉師範学校在職中に応召、２年半のスマトラでの兵役も経験された。平成２年５月、剣道稽古に出かける際、脳出血で倒れ永眠された。（77歳）

志藤先生は剣道について次のことを言われていた。

①「剣道の基本」：竹刀の握り方、足の踏み方、肩腰膝に至るまでの構えと、腰の入った気剣体一致の打突。それに加えて、攻めと間合いと打つ機会をとらえる「理合い」の修練が剣道の基本である。②「勝って打つ」：「面に来る高野先生の竹刀がはっきり見えるが何もできず打たれてしまう。勝って打つ先生の竹刀は実に遅かった。」剣道は、気で攻め合い、心で打ちあうものなので、死ぬまで強くなれる。③「初太刀」：父から「初太刀で勝負しろ」と言われ続けてきたので、範士受領記念手拭いにこの文字を使った。先の打ち込み技と共に「後の先」の技も十分習得しなければならない。④「生活即剣道」：道場だけの稽古はたいしたことはない、四六時中が修業である。道場で技術を、生活で心と身体を修めている。⑤「相手はすべて師」：誰が相手でも気を抜かず、無駄打ちをしない。⑥「剣道は宝探しだ」：今日これだ！と思っても数日で糠喜びになってしまう。剣道の魅力は、一瞬の喜びと長い探求の旅だ。

志藤先生に、喜寿祝いの希望を訊いたら即座に「元気な脚をくれ。ダメなら本音で志藤義孝観を書いた遺稿集が見たい」との返事があり、先生方と卒業生（計41人）に喜寿記念文集「初心」の原稿を書いていただいた。そこでも、誠実でユーモアがあり、「教育の根源は愛、愛とは知ること」をモットーとした教育者、そして「剣道即人生」の実践者として全員から慕われていた。このお人柄が、昭和42年埼玉国体剣道教職員の部団体優勝に、監督として大きく貢献したと推察する。

そのような志藤先生に私が勝てることは、稽古回数である。先生の同年代で比べても10倍以上だ。塩入先生に「そろそろ志藤先生を超えますかね？」と訊いたら「不遜だ！」と言われてしまった。納得!!

新八段紹介

八段昇段にあたって　関根　剛（杉戸剣道連盟）

この度、11月21日日本武道館での剣道八段審査会におきまして、思いかけず合格することが出来ました。これもひとえに、埼玉県剣道連盟をはじめ日ごろからご指導いただきました諸先生方、先輩方、剣友の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

私は、埼玉県宮代町に生まれ、以来64年間この町で生活してまいりました。地元中学で剣道部に入り、高校こそ名門不動岡高校剣道部に所属しましたが、稽古について行くのが精いっぱいの万年補欠で、部のマネージャーをしていました。

そんな私が武蔵大学入学後、剣道部師範で当時警視庁に勤務され、八段昇段されたばかりの故関根日吉先生に巡り合ったのが大きな転機になりました。

新人の私をいきなりレギュラーに抜擢し、お見えになる日は真っ先に稽古をつけていただきました。同好会に毛の生えたような剣道部を、関東学生を勝ち抜き全国大学選手権にまで手が届くような中堅校にまで鍛え上げていただきました。以来お亡くなりになるまで30年以上にわたりご指導いただきました。その中で特に印象に残っているのは、七段合格後の稽古で先生がポツリと「鍛えれば可能性あるな」とおっしゃったことです。

いまにして思えば、八段の可能性をこの時すでに予感されていたのかもしれません。

八段への挑戦は平成22年秋からです。神の領域とも言われる世界への挑戦ですからもちろん記念の受審です。受けることが出来ること自体がステイタスに感じました。その時、東部地区の加庭先生が合格されました。

0.6%の世界を勝ち抜く凄さに鳥肌が立ち、感動すら覚えました。翌年秋の１次審査で手ごたえを感じ、次の京都での審査会で１次突破、秋の審査会も１次突破しました。勢い込んで挑戦した平成25年26年と１次敗退。

京都での審査はパスし、東京１本にしました。平成28年２月の仙台は受けることが可能でしたので、思い切って受けたところ、１次通過し２次も３回目にして初めて手ごたえを感じました。

高校時代の恩師山中先生からは、稽古の質を変えなければ２次は通過できないとお聞きしていましたので、待ちの剣道スタイルから攻めの剣道のための稽古を意識してするように心がけました。

地元での稽古が主体でしたが、地区講習会や審査員講習会は積極的に参加し、講師の先生方の教えを日常の稽古に反映するようにしました。

毎週土曜日は大人だけの稽古会を行い、日本剣道形、基本打ちなどに１時間以上の時間を費やし、間合い、溜め、機会、強度、呼吸、一拍子の打ち、応じ技、返し技を繰り返し稽古しました。

これらのことが、審査の場に自然に出たのかと思いました。審査会場では、ほかの受審者の立会いには目を向けず、集中力を高めました。その結果１次、２次とも落ち着いてお相手の動きが見え、引き出しての打ちを無意識に出せたと思います。特に２次はお二人とも有効打突を３本、２本と決めることが出来、終了後は何とも言えないすがすがしさが残りました。

結果合格。その瞬間とんでもないことをしてしまったと、頭の中が真っ白になってしまいました。自分のようなＢ級の１田舎剣道愛好者がこんな栄誉をいただいてしまっていいのかということです。

これからは八段の剣道愛好者として、さらに剣道の奥深さを探求すると同時に、私と同じように地域で地道に活動されている先生方の一筋の光明となるべく、生涯剣道と地域剣道の発展のために微力ながら尽くして行ければと思っています。

結びに、平成28年11月21日はわたくし達夫婦の結婚40周年の記念日でした。この間、剣道の稽古や行事で留守にすることも多い中で、温かく見守ってくれた妻、そして心から応援してくれた家族の支えがあったからこそ合格できたと思います。その家族に感謝するとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどをお願いし、皆さま方へのお礼と昇段のご挨拶とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

「剣道八段に合格して」　井口　清（警察支部）

平成28年11月22日、日本武道館にて行われました剣道八段審査において、合格昇段させていただくことができました。これも偏に、これまでご指導いただきました諸先生方や諸先輩、剣友の皆様のお陰と心より感謝しているところです。

私は３度目の挑戦で合格をいただくことができました。過去２度の不合格を受けて、その都度自分の剣道を見つめなおし、悩み、修正し、更には諸先生方のご指導をいただき今回の合格に繋がった訳ですが、今回の審査に向けて特に意識したこと３点について述べてみたいと思います。

一つ目は「溜め」を意識することです。剣道ではよく「相手を遣う」と言いますが、触刃の間合いから一足一刀の間合いまで攻め込み、「溜め」を作って相手を引き出し、その端を打つ、または応じるといった一連の理想的な流れが「相手を遣う」というところに繋がってくると思います。今までの私は有効打突を取りに行く意識が強すぎて、肝心の「溜め」が効いていなかったように感じます。また、相手のスピードに負けないようにという意識も強すぎて、どうしても打ち急いでしまい、結果的には打突が空を切っていたわけです。先生方からは間合いが遠いとよくご指摘をいただきましたが、このあたりが間合いとも関連していたように思います。そこで今回自分の意識の中で実践したことは、一足一刀の間合いから更に半歩でも前に攻め込むということです。一歩間違えると近間になり相手の打突を容易にさせてしまうことになり兼ねませんが、そこのぎりぎりの間合いの駆け引きを逃げずに少しでも前へ出る。これが「溜め」に繋がると思い、勇気をもって攻め込むことを意識しました。実際に出来ていたかはわかりませんが、後になって自分の立ち合いを動画で確認したところ、不合格だった立ち合いと比べて明らかに手数が減り、いわゆる「無駄打ち」も減っていたのではないかと思います。

二つ目は「左手の収まり」です。以前の立ち合いや審査講習会等で先生方から剣先が動き過ぎるとご指摘をいただきました。私自身の悪癖で、試合等でも頻繁に動かしていたように思います。前述したように私の場合どうしても有効打突を取りに行く意識が強すぎた。結局、攻めたい、打ちたい気持ちが手に現れ、相手に打ち気が伝わり、相手を引き出すということが出来ずにいたように感じます。また、この「左手の収まり」は品格にも繋がっているようにも感じます。基本に立ち返り、左手の位置、力の入れどころを確認し、下腹に打ち気を収めるような気持ちで、普段の打ち込み稽古から意識して取り組んできました。審査で実践できたかは自分ではわかりませんが、これからも私の課題として意識していきたいと思っています。

三つ目は「己に克」です。審査や試合では誰でも緊張し普段の力が発揮できないで終わってしまうものです。それに打ち勝つためにも普段から厳しい稽古を重ね少しでも自信を持って本番に臨みます。私も例外なく緊張により結果に影響が出てきましたが、今回は普段の稽古というよりも、自分の今まで積み重ねてきたことに誇りを持ち、自信に繋げて堂々と立ち合うことを意識しました。審査日が近づくにつれ不安がよぎります。審査当日も他の受審者のことが気になりました。しかし、今回は自分を信じ、腹を括って堂々と立ち合う。ただ一心にこの気持ちを持ち続けることに専念しました。実際の立ち合いの最中は忘れていたかもしれませんし、どのような気持ちで立ち合っていたかは正直覚えていません。しかし、最高潮の集中力を発揮できたのではないかと思っています。

二次審査の立ち合いを終えた瞬間は不思議と充実感がありました。それは今までにない感覚でした。過去の立ち合いに比べて手応えを感じていたのかもしれません。しかし、評価をするのは審査員の先生方、結果を見るまでは不安でした。合格発表で自分の番号を確認した瞬間は嬉しさというよりは、安堵感を感じたことが正直な気持ちです。

合格当日は、沢山の方からスマホに祝福のメールや電話をいただき、改めてこんなにも多くの方々に支えられているものだと心から感謝した次第です。これからはこの感謝の気持ちを忘れずに、また、八段審査に臨んだ貴重な体験、経験を今後の剣道に役立て、段位に恥じぬように更に精進を重ねていきたいと思っています。

編集後記　「剣風」第11号をお届け致します。埼玉県剣道連盟では、次世代を担う幼少年に日本伝統文化である剣道を伝承、継承するために日々創意工夫を重ね、巻頭言では埼玉県県民生活部　スポーツ局長　久保　正美氏による「ワンパク剣道」の紹介。９月４日の少年剣道指導講習会。解脱錬心舘　館長　田中宏明氏による「道場は大家族」を掲載しました。すそ野拡大に繋がって欲しいものです。また新たに剣道八段合格者として関根　剛、井口　清両先生のお喜びの記事を掲載しました。広報部会としまして急遽加盟団体紹介を次回に先送りさせていただきますことご容赦ください。

（佐藤）